

会場で頂いた質問に対する回答（要旨）

Q. 今後の養殖ビジネスへの関わり方、取り組みの方針を教えてください。また、養殖に代わる成長ドライバーとして検討されている事業分野があれば教えてください。

A. ーサーモントラウト養殖会社は非連結化しましたが、ブランド力のあるノルウェーサーモンの販売拡大方針に変更はございません。今後は経営自由度が増したホフセス社からは、トラウトに加えてアトランティックサーモンも仕入れ、国内及びアセアン地域で販売していきます。養殖以外にも、事業品の輸出強化や畜産加工品分野への進出も、食品販売事業部門の成長ドライバーとして期待しております。

Q. 冷蔵倉庫事業は、23.9期に大きく利益改善する計画ですが、倉庫の新設はない前提でしょうか。今後の倉庫新設計画のイメージも教えてください。

A. ー23.9期は千葉（2月）、恵庭（5月）の2セクター計6万トンが完成し、経費の発生する前提で数字を策定しております。利益に関しましては、在庫率の改善だけでなく、現在進めておりますマルチ物流など、各種利益体制の強化施策によって利益が上積みされることを想定しています。その後毎年1棟ペースでの新設を想定しております。

Q. ESG経営に対する営業面での変化について教えてください。御社の顧客からESG対応がなされている冷蔵倉庫のニーズは高まってきているのでしょうか？

A. ーコンビニサプライヤーなど、大手顧客からの当社環境配慮型冷蔵庫へのニーズが高くなっております。今後は他の顧客にもScope3の浸透が進めばますますこの傾向が強くなり、当社冷蔵庫の競争力が高まると想定しております。

Q. エネルギーコストの状況について、新年度のコスト増の金額イメージを教えてください。また、保管料などへの転嫁は可能でしょうか？

A. ー燃料調整費や再エネ賦課金など上がる要素はありますが、高効率冷凍機への切り替えや太陽光発電の設置、100%再生可能エネルギーの導入等で75期動力費は全体として大きくは上がらない見込です。

Q. 国内でのサーモンの陸上養殖の可能性はありますか。

A. ー国内での陸上養殖は、運送コストが海外よりも低く、寄生虫リスクが無いのはメリットですが、採算性等未知の部分が多く、当社としては参入の可能性は低いと思われます。

Q. 冷蔵倉庫事業の保管量あたりの温室効果ガスの排出量と冷蔵倉庫業界の排出量について、定量的な比較感があれば、教えてください。

A. ー収容能力あたりのCO2排出量はトン当たり61.7kgで、2015年（基準年）度27.5%減となりました。2030年には同年比40%減を目標としておりますが、前倒しの達成を検討中です。今のところ冷蔵庫だけの比較できる数値は見当たりません。

- Q. 養殖事業非連結化後も優先株等がBS上のリスクとして残りますが、優先株の配当条件、投資回収期間についてお考えあればお教えてください。また養殖事業会社は今後、自力で資金調達していくことが可能と考えてよろしいでしょうか。
- A. 一ホフセスは売上高500億・EBITDA30億を超える優良企業で、養殖事業を傘下に入れた今回の再編によって、現地での資金調達能力も大幅に上がり、売上・利益とも今後拡大が見込まれます。配当や将来的な資金回収に懸念は持っていません。